



JMAS 活動報告

2012年12月号

カンボジア事業10周年 国王から感謝状と名誉勲章

JMAS が2002年にカンボジアで活動を開始してから、今年で10年を迎えました。これまでの10年間の活動に対しこのほどカンボジア国王から感謝状と名誉勲章が JMAS に贈られることになり、先崎一 JMAS 会長がカンボジア・プノンペンで受章するとともに、これまで JMAS の活動にご協力、ご支援いただいたカンボジア、日本の関係各位、関係機関に感謝を表明する記念式典も行いました。

国王から受章した感謝状には「**日本地雷処理を支援する会が実施した2002年から2012年までのカンボジアにおける地雷・不発弾処理活動への積極的な貢献を称え、モハ・セレイ・ワットの勲位のモニ・サラ・ポアン名誉勲章を授与する**」と書かれています。



国王からの感謝状

感謝状とともに受章したモニ・サラ・ポアン名誉勲章は、カンボジアに対する人道支援に貢献した団体・人物に贈られる勲章で、国王が授ける章の中では最高位の勲章であり、通常は国王自らが王室で授ける勲章だそうです。

地雷・不発弾処理は地道な事業ですが、今回 JMAS の活動の原点でもあるカンボジアでこのような大変名誉ある章を受章、身に余る光栄と評価をいただいたことは、JMAS にとって非常に誇り高いことであります。



ブラック・ソコン首相補佐特命大臣(右)から名誉勲章を受章した先崎会長



モニ・サラ・ポアン名誉勲章

JMAS だけではなしえなかったことであり、これも一重に今日まで JMAS を支えて下さった皆様のご支援の賜物と痛感し、感謝しております。今後とも、皆様のご支援の先に私たちの現場があり、現地の人々の笑顔があることを改めて肝に銘じて、カンボジアの人々が安全な土地で生活していけるように尽力してまいります。

CMAC に感謝状と記念品贈呈

JMAS は、カンボジアでの10年間に亘る活動でご協力、ご支援を頂いた関係各位、各機関への感謝を込め、11月2日にプノンペンの「ヒマワリ・ホテル」のガーデンテラスで「10周年記念式典」を開催しました。

式典は在カンボジア日本大使館・黒木雅文特命全権大使、ブラック・ソコン首相補佐特命大臣、ヘイン・ラタナ CMAC(カンボジア地雷対策センター)長官をはじめ、関係者約150人が参加して盛大に行われました。

また、式典では、この10年間 JMAS とともに汗を流した現地パートナーである CMAC に対し、先崎一 JMAS 会長から感謝状と記念品が贈呈されました。



プノンペンのヒマワリ・ホテルで開かれた記念式典

カンボジア

住民参加型地雷処理事業(CBD)終了

2012年9月6日「2012年度バタンバン州における地雷処理促進事業」の日本 NGO 連携無償資金協力贈与契約・署名式が在カンボジア大使館において行われました。

このプロジェクトは2012年9月9日～2013年9月8日までの1年間、バタンバン州ラタナックモンドル郡トラエンコミュンにて実施されます。このプロジェクトの特長は新たにランドリリース方式を導入するとともに、機械処理と人力処理を統合一体化したものになります。

これに伴い2006年度から6年間継続してきた CBD(住民参加型処理)は終了する事となりました。CBD 事業の終了に当たり9月3日及び4日の両日、同事業を行っていたバタンバン州カムリエン郡タサエンコミュンにおいてバタンバン州知事、CMAC 副長官、郡長、コミュン長、日本大使館町田参事官及び鶴沢書記官、JMAS スタッフ、CBD 隊員、住民等約500人が参加して、記念碑除幕式及び CBD 終了式典が盛大に行われました。



CBD 終了式典



記念碑

不発弾処理事業

2012年10月19日、「タケオ州等における不発弾処理促進事業」の日本 NGO 連携無償資金協力贈与契約・署名式が、在カンボジア大使館において行われました。このプロジェクトは2012年10月19日～2013年10月18日までの1年間



黒木カンボジア大使(左)と谷川代表

継続中のシュムリアップ州、タケオ州、コンポントム州の他、新たにコンポンチュナン州及びポーサケット州を加えた5個州で活動し、被害者の減少と CMAC 隊員への技術移転に貢献します。



ネアックルン橋

安全な村づくり(SVC)事業

バタンバン州ラタナックモンドル郡で活動中の「安全な村づくり(SVC)」プロジェクトでは今年の春トラエンコミュン・チサン村にプロジェクト4校目となる「スレアタナウト・コマツ小学校」が完成し、この10月から生徒が通えるようになりました。

開校式は9月25日にラタナックモンドル郡長、コマツ篠塚常務 JIMAS 谷川現地統括代表はじめ村民、生徒、CMAC 隊員及び JIMAS スタッフ等総勢約300名が参加して行われ式後、初めての運動会が開催されました。



生徒代表によるお礼の言葉(上)、運動会で綱引きの「競技」(右上)、小学校正門に掲げられた感謝の掲示版やバナー(右)



カンボジア・ネアックルン橋梁建設における爆発物対策コンサルタント事業



桟台上の掘削機の防護対策



メコン河東側の主塔建設現場



ネアックルン橋完成予想図

ネアックルン橋は、ホーチミン(ベトナム)～プノンペン(カンボジア)を結ぶアジア・ハイウェイである国道1号線のメコン河渡河地点に、日本の ODA 事業として2010年6月から建設中です。

本年7月、主塔掘削時不発弾が発見され、掘削工事は全面中断し、急遽 JICA から爆発物対策に関するアドバイスを要請されました。

JMAS は、主塔基礎掘削時における不発弾探査・除去業務、桟台上の各種防護安全対策、安全な掘削作業のための作業手順の提案及び実施の確認などのコンサルタント業務を実施し、11月主塔掘削工事は、全面的に開始されました。

ラオス不発弾処理

アッタプー県における不発弾処理

昨年8月から実施中であった第1次事業は、クラスター爆弾に汚染された約116haの土地の安全化及びラオス不発弾処理機関(UXOLao)の隊員に対する技術移譲による処理能力の向上などの成果を上げて異常なく終了しました。引き続き8月2日から開始された第2次事業において、中條専門家は、学科とOJTによる大型爆弾等処理技術の移譲を継続するとともに「電動鋸による爆弾カット処理」方法の技術を移譲するため関係機関と調整しつつ教育準備を進めています。

チャンパサック県

サラワン県

アッタプー県



道路際で見発見された大型爆弾



発見された大型爆弾の識別をする中條専門家



大型爆弾の安全化作業終了

チャンパサック県における不発弾処理

日本国政府、日本企業及びJMASの三者が協同する官民連携事業は、前年度の事業地サラワン県に隣接するチャンパサック県において7月から2期目となる事業を開始しました。西城専門家の監督・指導のもと、取得した土地の測量、樹木の伐採及び不発弾の探査・処理を実施中であり、終了後は安全化された土地に製薬会社ツムラが地元民を雇用して生薬原料となる薬草の栽培を開始することになっています。



樹木伐採



不発弾の探査



不発弾探査を指導中の西城専門家(右)

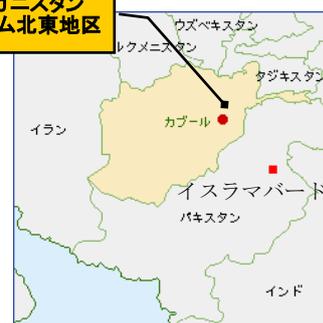
アフガニスタン地雷・不発弾処理

8月から最後の処理現場としてバグラム北東カピサ県境近くの山脚部を割り当てられ、旧ソ連軍陣地跡の傾斜地で危険な処理作業に任じています。現場からはソ連製の対人地雷、対戦車地雷の他にイラン製対人地雷と対戦車地雷が発見されました。最後まで気を抜くことなく事故の絶無に努めたいと思います。

2006年に開始したアフガニスタン事業は来年3月をもって終了し、カブール事務所及びパキスタンのイスラマバード事務所を撤収します。

なお、この6年余の成果は、242ha(東京ドーム52個分)の地雷原を安全化し、地雷7,423発、不発弾3,212発を処理しました。処理跡地には、今や帰還難民の住宅が建設され、ぶどう畑やウモロシ畑に活用され地域の経済発展に寄与しています。

アフガニスタン
バグラム北東地区



山脚部新地雷原の基点



危険な傾斜地の地雷処理



対戦車地雷の爆破処理

海外のスタッフを紹介します



カンボジア不発弾処理専門家
野田 宣嗣(のだ よしつぐ) 63歳

プロフィール:福岡県出身、昭和48年陸上自衛隊入隊、12武器隊、北海道補給処、武器学校、陸幕、第5高射特科群、富野弾薬支処長、西方総監部等を経て九州補給処弾薬部長及び装計部弾薬課長を最後に平成16年定年退官

不発弾専門家としてプノンペンに駐在し、カンボジア人の不発弾処理チーム(1チーム3人)3個チームと、CBURR(不発弾の情報収集兼案内人)9人とともに活動しています。不発弾専門家の仕事は大きく分けて3つあります。

一つ目は処理活動を通じてのOJTです。出発準備・発見・識別・安全化・回収・爆破処理等の一連の活動をチームと一緒に行動しながら、現場で指導しています。カンボジアで発見される不発弾は500種類以上で、日本では見たことがない弾薬が多数あり、日々勉強です。二つ目はトレーニングセンターでの集合訓練の担当です。CMACの不発弾処理隊員などに対し学科及び術科教育をして、日本の考え方・方法について体系的に教えています。三つ目は危険回避教育です。学校を巡回しスライド・ビデオ等を使って不発弾の恐ろしさや注意事項等を教育します。子供達は非常に熱心に聞いてくれ、教育終了後、子供たちから笑顔がいっぱいの拍手をもらった時はうれしくなります。

カンボジアに来た当初は、蚊に刺される度にデング熱を心配し、氷・生野菜を食べる度に正露丸を飲んだり大変でしたが、すっかり慣れ、カンボジアの生活を楽しんでいます。



カンボジア土木専門家
下園 修良(しもぞの のぶよし) 60歳

プロフィール:鹿児島県出身 昭和46年陸上自衛隊に2等陸士として入隊、第7施設大隊、岩見沢駐屯地業務隊を経て第8施設大隊を最後に平成18年定年退官

陸上自衛隊初のカンボジアPKO、その第2次隊の隊員を熱望しましたが希望は叶いませんでした。自衛隊退職後、第2の就職をして悠悠自適の生活を送っていましたが、海外での仕事がしたいという思いが強くなり無理を承知でいろいろな人に相談にのって頂き、ついに2011年6月カンボジア王国の地に立つことができました。

現在バタンバン州において実施中の安全な村作りプロジェクト(SVC)を担当しています、このプロジェクトは、コマツ様の支援を受け、カンボジア地雷対策センター(CMAC)と協働して地雷処理跡地に道路、井戸、学校などインフラ整備を行い地域の復興支援に寄与するものです。地元の人々特に子供たちと触れ合いながら生活環境の改善に寄与できることに大きな喜びを感じるとともにやりがいのある仕事に携わることができ感謝の気持ちで一杯です。

着任前は、今までの経験を発揮すれば万事問題ないと楽観視していましたが、着任翌日から波乱万丈の連続でした。全てがカンボジア流に進んでいく現実に戸惑い、そんな自分の気持ちを知って激励してくれる先輩にまで苛立った事は、1年経った今では懐かしい思い出です。

これからも協働するCMAC隊員と力を合わせて、人々のために仕事をする事ができる幸せ・喜びを感じつつ活動を続けていきたいと思ひます。カンボジア大好きです。ご支援を宜しくお願いいたします。



アンゴラ地雷処理・地域復興

6月1日に平成24年度の無償資金協力贈与契約を締結し、ベンゴ州マブバス地区における第5次事業(24. 6. 1~25. 5. 31)を前年度に引き続き中断無く開始することが出来ました。本年度は、木と土埃の地形で除去機に負担の大きい難地で、新たな住宅1000戸用地(約40ha)の地雷処理を行っています。整備所要は増していますが、着実に処理事業は進捗しています。

地域復興支援にあたっては、道路整備、給水、清掃活動、農業心育成及び青少年育成等の支援事業も拡充を図るべく引き続き実施中です。



5次事業協定書の調印式における奈良代表とサパロ INAD 長官



灌木地を除去中のナジーラ号



除去機の整備を指導中の専門家



除去済みの跡地には住宅等建設中



教場(地雷展示)に列をなす子供達 (JMAS 祭り)



朝の水場は大混雑

アンゴラ地雷除去機専門家派遣(JICA 受託事業)

平成23年12月15日から約1年に亘り、アンゴラ国家地雷除去院(INAD)長官をカウンターパートとして、主としてINADの機械処理能力の向上を図るため、各州の現場等を調査して問題点等を洗い出し、その対策案を案出して、長官と調整の上、その一部を実施するもので、これまで現場指導者に対する管理教育及び整備教育の一環として溶接技術教育を実施しました。



INAD長官に調査状況等を説明する田川専門家(右から3人目)



現地調査は車で長距離移動



溶接技術教育における隊員指導

パラオ共和国との覚書(MOU)署名式

平成24年9月27日、トレビオン大統領、貞岡パラオ大使の立ち会いの下、ヤノ国務大臣と寛顧問の間で、パラオにおける JMAS 活動に関する覚書(MOU)に調印しました。これにより、パラオにおける JMAS の活動が認められました。新事業実施検討のための2回の現地調査(24年2月、24年4月)、今回の署名式とも、それぞれ現地新聞で報道され、パラオにおける JMAS 活動への関心と期待も高まっています。12月、いよいよパラオにおいて海中に残る爆発性戦争残存物(ERW)処理事業を開始します。



日本から南へ約3000キロ、586もの島からなるパラオ共和国



署名式での(左から)トレビオン大統領、ヤノ国務大臣、寛顧問、貞岡大使



署名式を伝える現地の新聞

ラオス・クラスター子弾処理機械化パイロット事業終了

本年1月から5月末日まで、ラオス人民民主共和国シェンクワン県において、株式会社小松製作所との協同研究事業として、NRA(ラオス国家調整局)とUXO Lao(ラオス不発弾処理機関)の協力を得て行われていた不発クラスター子弾の機械化処理パイロット事業は、機材改良及び作業規範作成の方向性の確認等の成果を得る事が出来ました。しかしながら、機材のこれ以上の改良は、現行の日本の法規・政策上、困難であるとの判断から、本年9月30日をもちまして、事業を終了させて頂く事になりました。ご支援頂いた皆さま、誠に有難うございました。



ボンビー(不発クラスター子弾)の機械処理の瞬間



事業参加メンバー(処理機材前にて)

事務局

JMASは、外務省からNGO連携無償資金協力を受けるとともに会員はじめ多くの方々のご支援をいただいで活動しています。



ALSOKありがとうございます運動様からのご寄附

9月19日総合警備保障株式会社「ALSOKありがとうございます運動」様からご寄附をいただきました。設立当時から継続して大きなご支援を頂いております。「ALSOKありがとうございます運動」の皆様には厚く御礼申し上げます。



グローバルフェスタ展示

10月2、3日、日比谷公園において外務省主催の国際協力イベント「グローバルフェスタ」が開催され、2日間で約10万人が来場しました。JMASはパネル写真・模型展示、物品販売のほか地雷探知機の操作体験(左)を行い大変な人気を集めました。



【人事往来】

【役職】	【新任】	【退任】
カンボジア 地雷処理専門家	9/9 高木 茂	9/8 佐古 壽聰
ラオス MBC担当		10/31 亀井 英紀
事務局 カンボジア担当PC		9/8 菅内 透
ラオス担当PC	10/1 関 廣明	9/30 重松 正久

★ お疲れ様でした ★



佐古さん



亀井さん



菅内さん



重松さん

【ご入会・ご寄附のご案内】

正会員 : (個人) 年会費 1 万円 / (法人) 年会費 5 万円
賛助会員 : 1 千円以上

〈郵便振込〉 00170-1-13709

特定非営利活動法人日本地雷処理を支援する会

【JMASへのご寄附は寄附金控除の対象となります。】

所得税額の控除の一例を示しますと、所得金額が300万円の方が1万円ご寄附されますと、 $(10,000 - 2,000) \times 0.4 = 3,200$ が所得税額から控除出来ます。

認定 特定非営利活動法人
日本地雷処理を支援する会
(国税庁長官認定: 課法 11-43 号)

〒162-0845
東京都新宿区市谷本村町 3-18
エムズビル 5 階
TEL: 03-5228-7820 FAX: 03-5228-7821
E-mail: jmas-hq@jmas-ngo.jp
URL: <http://www.jmas-ngo.jp>



書き損じハガキを送ってください!